



【人生の涙に目を留めて下さるイエスキリスト】

本日聖書：ルカの福音書7章11-17節/暗唱聖句：エレミヤ書31章16-17節

ちよんなむちよる

説教者：鄭南哲牧師

愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族のみなさん！一週間もみんなお変わりなくお元気でしたか。11月には、人生の中で様々な苦しみ、悲しみの絶望中にある人々々に先に訪ねて下さるイエスキリストの深い愛と救い、その恵みについて聖書の御言葉を通して学ぼうとしています。先週、ベテスダという池の周囲で38年間病で絶望の中苦しんでいた一人の病人に対してイエスキリストご自身が先に見つめておられ、訪ねて行かれ、癒し、回復させて下さる神の深い愛と恵みを学びました。毎年11月、この時期になると、我らの周りに色々な助けが必要な方々が多く見えます。急に寒くなり体調崩されている方々、一年間背一杯頑張っている働き体や心の疲れを覚えている方々、家庭の家事や子育てで色々疲れ悩んでいる方々、学校の生活や勉強で疲れている学生や子供たち、心の孤独と寂しさを感じている方々など、特に今年はコロナ禍の中で実は我らみんな疲れとストレスがよく溜まっている状態ではないかとも思われます。是非、まず、毎週の礼拝の御言葉を通して、もう一度、我らをもすべてを見ておられ、すべてどういう状態であるのかご存じであって、先に我らに方にも訪ねて来られる救い主イエスキリストを迎え入れ、癒し、回復させて下さる主の御手をしっかり握ることが出来ますように切に祈ります。それによって、今も我らと共におられる神の御子イエスキリストが疲れているみなさんを癒し、みなさんの全てを回復させ、奮い立たせ、立ち上がらせて下さる神の恵みと御力を實際体験出来る礼拝の時間となりますように切にお祈り申し上げます！アーメン！

<本文内容>

今日の話はイエス様がカペナウムという町にいたある百人隊長の素晴らしい信仰の為、病気で死にかけていた一人のしもべをいやして下さった出来事から、南の方向に一日歩いて行けば出てくるナイン(Nain)という美しい町に行かれた時の出来事の内容です。今日の御言葉はその美しい町に住んでいた一人のある女の人生に注目して下さっています。

おそらく、彼女は若い時、一人の男性にめぐり合い恋に落ち、結婚にまで至れたでしょう。そして幸いな結婚生活の中で新しい命ひとり息子が生まれました。この若い夫婦にとって、この女にとって、どれほどいとおしく、かわいかったでしょうか。その子をながめながら、幸いな日々を過ごしていたと思われれます。これからずっとわが家庭には幸せな日々だけが待っていて永遠に続くだろうと思っていたでしょう。ところが突然、愛していた夫が病気か、事故か何の理由だったのか分かりませんが、夫は早くなくなりました。幸せだったこの女の方は、いきなり未亡人、やもめという身分になってしまいます。今日も、母親一人で子供を育ちながら、生活することはたやすくはないのに、2000年前の当時イスラエルで女が夫を亡くし、一人で子供を養うと言うことは恐ろしいほどの試練と残酷な貧しさ、そしてさびしさでとても大変な目にあうことになったのです。彼女はどれだけ悲しみの涙を流しながら日々を過ごしたでしょうか。

しかし、それにも関わらず、彼女には生きれる一筋の光がありました。それはすくすくと育てているひとり息子がいたからです。彼女は残りのすべての人生をこの息子の為、生きることを決心し、すべての力を尽くして頑張っているひとり息子を育てながら日々を過ごしたはずで、そしてやがて息子は青年になりました！成長した息子をみながら、母として女はどれだけ心強く、頼れる存在になったでしょうか。青年になった息子を見るたびに‘あ、やっと我が家にもたよりになる柱(はしら)ができたわ’と言いながら、どれほど安堵(あんど)の胸をなでおろしたのでしょうか。

ところが、なぜか、どんな理由だったのかは分かりませんが、彼女の人生の全てだった大事な一人息子まで突然死んでしまいました！息子までなくした彼女は今まで必死に我慢し、耐えて来たすべての悲しみと生き残された者の深い後悔と恨みだけが残り爆発してしまったでしょう。きっと町の人々は葬儀の準備すらできないほど悲しんでいるこの未亡人を助けるために、集まって来ました。死んだ息子を床において髪の毛を整えます。そして一番きれいな服で着替えさせ、棺(ひつぎ)に遺体を入れて両手を合わせておきます。これがイエス様の当時のイスラエルの入棺の順序でした。イスラエルは暑い気候なので、お葬式は当日に行われます。午後5時か、6時頃、一日の気温が下がり、すずしくなったら、棺(ひつぎ)を担(かつ)いで家を出ます。

埋葬する埋葬地と言っても、町から20-30分あれば行けるすぐ町の近くの距離です。

<1. 泣かなくてもよい！：人生の涙の意味を知っておられ、ぬぐい取って下さるイエスキリスト>

悲しみと涙の葬儀の行列(ぎょうれつ)がナインの町の門を出ようとしたちょうどその時、イエス様はナインの町に入って下さっていました。永遠の命の主神様の御子なるイエスキリストが群衆とともにナインという町に入って来られました。その向こう側には死の霊が引っ張る死と悲しみの行列が近づいて来ていました。二つの行列がつきあわせます！意味深長(いみしんちょう)な場面ではないでしょうか。イエス様はこのような状況においてどうされたでしょうか。人は死が恐ろしくて目を逸(そ)らしたり、死の行列をなるべく避けようとするかも知れません。あるいはこの青年の葬儀行列が通り過ぎるまでどうしようもできず、人はただ通り過ぎるまでじっと待つしかで出来ないかも知れません。

しかし、イエス様は泣きながら、息子のひつぎのうしろにもう生きる自信も希望も気力も全て失って悲しんでいるこの未亡人に目を留めて下さいました！聖書を読んで見ると、イエス様はこの世におられた時最優先的に目を向けて注目された人々は、この世の中苦しみ悲しみにおわれた人々でした。この世で苦しんでいる人々、この世から疎外される弱い人々、やんでいた者でした。自分の人生においてみずからはどうしようもできない困っていた人々でした。聖書の福音書をじっくり読んで見ると「イエス様が見た」ということばがおおよそ40回以上も出て来ています。この地上に来られたイエスキリストの目線がとどまる場所はいつも人生の重荷を負って苦しんでいた人々だったのが分かります。イエス様は彼らの痛みの深さをご覧になり、そしてその痛みを哀れんで下さいました。

いつもの通り、イエス様は夫も、息子とも死に別れ、死別の悲しみの中母親の苦しみをご覧になりました！そして哀れんで下さいます。この母親はどれだけ耐えられないほど悲しんでいるのか、どれだけ胸が裂かれるほどつらいのか、イエス様は強いて何の説明を聞かなくてもこの未亡人の母親の状況すべてをよくご存知で、女の苦しみと痛みをイエス様の心もあらわして下さいました。本文13節に、「主はその母親を見て深くあわれみ、」。これは人がかわいそうに思う同情ぐらいではなく、まさに「神様のあわれみ」のことです。13節に、泣いているやもめをイエス様はごらんになり、深く哀れんでくださいながら、イエス様は彼女にやさしく「泣かなくてもよい!」と語って下さいました。イエス様のこのお言葉はただの慰めるぐらいだけのお言葉ではありませんでした。イエス様はその未亡人の目から絶えず流れている涙の深い意味すべてを知っておられ、その涙を拭き取って下さいます。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！我々の中で一度も泣かずにこの世を生きる人はだれもいません。イギリスの有名な説教者だったスポル・ジョン先生はよく言われました。“神様は泣かない子どもを持ったことがあるでしょうか。”イエス様ご自身もこの世におられる間何度も泣かれたことがあることが分かります。「イエスは涙を流された。(ヨハネの福音書11章35節)」、ヘブル人への手紙5章7節には、「キリストは、肉体をもって生きている間、自分を死から救い出すことができる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、その敬虔のゆえに聞き入れられました。」

ある方は人生を苦しみの海だと言いました。人生は苦しみと悲しみの雨風が吹き付ける海の航海(こうかい)のようです。涙がないわけには生きません。人は産まれる時から泣きながら人生をはじめます。そして、死ぬ時でさえ目に涙がたまったまま、息を引き取る場合が多いでしょう。

人生の涙を流す事は決して恥ずかしい事ではありません。この社会では泣く事をさげすんだり、恥ずかしく思わせる傾向があります。しかし、それは間違った文化ではないでしょうか。悲しいのに悲しくないふりをしようと努力する事も偽りで、大変なのに大変ではないようにふるまうことも偽善です。

みなさん！泣きたい時は心ゆくまま泣いても大丈夫です。この世を見てみましょう。涙なしにはいられない大変な時、辛い時、さびしくて苦しいも数多くあります。神様の子であるイエス様もこの世をみながら泣かれました。

ですから泣く事は恥ずかしい事ではありません。主は我らの涙を尊ばれます。泣く人を見つめておられます。

我々の中でもひそかに泣いている方々がいらっしやるかも知れません。ぜひ覚えてください。

みなさんが泣いている時、イエス様はみなさんを見つめておられます。それだけではなくすべてをご存知で、みなさんの心とすべての状態をだれよりもよく理解して下さるお方です。しかし、イエスキリストを信じているみなさんは、是非みなさんの涙を祈りを持って主に打ち明けて見てください。

ダビデは神様に泣きながらこう祈りました。「どうか私の涙をあなたの皮袋(かわぶくろ)にたくわえてください。(詩篇56篇8節)」神の人であったダビデは“私は神様に愛されている子どもだ。たとい人々は私の涙の意味を知らず、何の関心もなく、みのがしても、神はかならず私の涙を見ておられ、その涙ぬぐい取ってください。これ以上涙を流すことがないように主は助けて下さる。”という信仰をもって神様の御前で泣きました。“主よ。私の涙を主の皮袋に入れてください。主の子どもが今泣いています。私の涙を忘れないで下さい。”神様はその祈りを聞き入れてくださって、ダビデの涙がかわって踊りとなったというハッピーエンディングを私たちは知っています。

幼い子供が泣いている時、それを見ている親の心は自分の子供が泣いている涙に目を留めて下さいます。子どもの涙に親も心をいたみ、動かざるを得ません。同じように、我らが涙を持って主に求め、祈る時、神様もともに心をいたみ、御手を差し伸べ助け出してくださいませ。「(イエス様は)傷(い)たんだ葦(あし)を折(お)ることもなく、くすぶる灯芯(とうしん)を消(け)す事もない。(マタイの福音書12章20節)」と言われました。「神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。(詩篇51章17節)」、「主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、たましいの砕かれた者を救われる。(詩篇34章18節)」そういうわけで涙の祈りは神様の心と天の座(ざ)を動かすカギとなるという事実を忘れてはいけなと思います。

旧約時代エレミヤ預言者を通して、絶望の中苦しみ、悲しんでいるイスラエルの民をずっと見ておられ、こういうメッセージを与えて下さいました。「主はこう仰せられる。「あなたの泣く声をとどめ、目の涙をとどめよ。あなたの労苦には報いがあるからだ。—主の御告げ。—彼らは敵の国から帰って来る。あなたの将来には望みがある。(エレミヤ書31章16—17節)」

イエス様は今この未亡人の女の方にも“泣かなくてもいいよ。あなたの将来に希望があるから!”と語って下さいました。

今も生きておられるイエスキリストは、我らにも我らが流している涙の意味全てを知っておられ、慰めることが出来るお方であることを覚え、日々主から痛んでおられるみなさんの心が慰められ、みなさんの全ての涙をも主がぬぐい取って下さるのを今週も体験することが出来ますように切にお祈り申し上げます。

<2. 涙の人生を涙で終わらせないで永遠の命と救いを与えて下さるイエスキリスト>

そして、彼女の涙の人生を涙で終わらせないイエスキリストの御姿が現れます。イエス様はさっそく、青年の棺に手を触られると、ひつぎをかついでいた者たちが停まりました。イエス様がこう命じられます。14節です。“若者よ。あなたに言う。起きなさい。”すると、死んでいた青年が救い主なるイエスキリストのお言葉通り、棺(ひつぎ)から起き上がり生き返らせて下さったのです。救い主なるイエスキリストは生き返ったその青年をもう一度彼の母に導いて下さいました。イエス様は一人のやもめの涙を変えて喜びとさせ、悲しみを変え踊りとなりように変えて下さいました。イエス様は人の力ではどうしてもできない人の悲しみの根本的な問題である死の問題から解決して下さることにより、もう死んだ状態の彼女を救い出し、もう一度生きる望みと力を与えて下さったのです!この出来事を通して、今日を生きている私たちに教えようとするがあります。

私たちの中には夫を先に亡くし、一人しかいない子どもまで亡くし悲嘆(ひたん)の涙にくれる未亡人のような場合はそんなに多くはないと思います。かりに今そのような方がいたとしても、イエス様によって同じ生き返らせるこの奇跡がめったに体験出来ないかも知れません。ナイン町のこの未亡人に起こった出来事を通して、イエス様は今日の我らに変わらないとても大切な真理のメッセージを我々に示し、教えてくださっています。神様は聖書のたった一節さえも意味なく記録されたわけがないからです。

いったいなぜイエス様はこのような生き返らせる奇跡を行われたのでしょうか。この出来事には根本的な目的があります。死の霊たちは葬儀の行列(ぎょうれつ)を引いてきながら意気揚々(いきようよう)していたかも知れません。死んだ青年の遺体(いしん)をかついで行った時、サタンは自分だけがこの世と人の全てを、死の恐れと力によって君臨し、堂々と天下を治められる絶対君主(くんしゅ)だと勘違いしていたかもしれません。しかし、ちょうどその場で、永遠の命の主なるイエス様とばったりと会ってしまいました。イエス様が“(死んだ)青年よ、起き上がりなさい。”と命を生き返らせるよう命じられた時、サタンは何の力も、策略も抵抗も出来ませんでした。サタンはその青年を死のままで縛っておくことはできませんでした!救い主なるイエス様がいのちを命じると、ひつぎの中にいた青年は死を打ち破って起き上がったのです!

結局、サタンは御子イエスキリストの御前で何もできませんでした。聖書は「キリストは死んでよみがえられたのは、死んだ人にも、生きていた人にも、その主となるためです。(ローマ人への手紙14章9節)」と教えて下さっています。イエス様ご自身は「私はよみ

がえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬ事はありません。あなたはこのことを信じますか。(ヨハネの福音書11章25-26節)」と言われました。ですから、イエスキリストを信じている私たちに永遠の死と言うのはもう存在しません！肉体の死は永遠の命に移るためのただの過程にすぎません。

今日のナインの町で、死の分かれで悲しまれ、絶望のどん底に陥られていたこの未亡人に、そして、一緒に人生の死の恐れと悲しみで集まっていた町の人々に、人の死が決してすべて終わりではないことを、救い主なるイエスキリストによって、死んでも生きる永遠の命が主から与えられることをみんなが信じる事が出来るようにするために、今日の奇跡を主はみんなの前で起して下さったわけでありませぬ。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！この世は離別の地であり、離別の涙もとまりませぬ。我々がこの世で長く生きていればいるほど愛する人や家族と死による別れの時間がその分近づいて来ている意味だと言えるでしょう。今日の箇所のように愛する夫をさきに天に送り出し、もしくは愛した命のような子どもを先に天に送った方々もいると思います。人である以上、愛する人がいきなりなくなるという事実によって悲しくなるのは誰一人避けられず、いつか必ずその時を迎える時が来でしょう。しかし、さきに行かれた方々は死んだ者ではありません。イエス様は聖書をとおして死んだ者をいつも‘死んだ’と言わずに、‘寝ている(マタイ9:24)’と言われました。

実際、イエスキリストを信じた方々はすでに永遠の命をいただいて、神の御国に入り、永遠にそこで生きているでしょう。そして私たちもやがてその神の国に入るのです。

もしこの場に、まだイエスキリストを信じる信仰を持って、信仰の告白をされていない方々がいらっしゃるなら、いつか直面するこの死の問題をどうやって準備し、解決されるのかを問いたいです。自分の死の問題を備え、解決しないで、どうやって残りの人生を安心して、平安のうちにこころよく生きれるのでしょうか。

救い主イエスキリストを信じて、死んだ者と生きている者の主となるその方に、これからの人生の海の航海のかじをゆだねるのではありませんか。我々を愛しておられ、哀れんでくださって、救いの御手をしっかり、握り、今みなさんが経験している人生のすべての悩み、悲しみ、苦しい諸問題をイエスキリストに任せ、下ろして見ませんか。

ご自身が復活の主となられ、全ての人の生死を治めておられ、永遠の命を与えて下さるイエスキリストを迎え入れて下さい。是非信じて下さい。十字架で我々のすべての罪をゆるすために死なれ、復活されたイエスキリストご自身が死を打ち破り、その方を信じるすべての人々に死ですべて終わらせず、永遠の命を与えて、天国で永遠に生きる希望を我々に与えて下さっているのです。「キリストによってすべての人が生かされる(第一コリント15:22下)」と書かれたように今もイエスキリストは人生の目的を失い、生きる意味を失い、死を恐れている人々を変えられ、生きる希望を与え、死から天国への永遠の命に移らせて下さっています。

<まとめ-涙を涙で終わらせない神の御子イエスキリスト>

もちろん、時にはこの地上で信じている人々も、涙のかわくことがない苦しい人生を送っている場合も多くあるでしょう。しかし神様は我々に約束されました。おりにかなった恵みをくださるか、すべてのことを働(はたら)かせて必ず益としてくださる計画にいれさせてくださるのだと。「ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折(おり)にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。(ヘブル人への手紙4章16節)」

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画に従って召された人たちのためには、神がすべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。(ローマ人への手紙8章28節)」哀れみ深い神様は我々と我々の具体的な必要すべてをよくご存知ですので、おりにかなった助けと恵みをためいつも備えて与えて下さいます。愛するみなさん!神様は決して我らの涙を涙で終わらせませぬ。だれでもイエスの名を呼ぶ者はだれでも、涙で終わる人生にならないように必ず助けて下さいます。最近大分疲れていらっしゃる方々がいますか。物事が願うままにうまく行かず、行き詰まったかのように悩み苦しんでいる方々がいますか。涙の日々を過ごしている方がいるのでしょうか。その涙を大切にしてください。イエス様を信頼し、その方の御前に出てすべてをさらけ出し、打ち明けて行きましょう“泣かなくてもよいよ。”と言われている主を慰めの御声と共に、実際みなさんを助け、問題や悩みすべてを解決して下さるキリストの恵みを体験する今週一周間となりますように、主イエスキリストの御名によって祝福を祈ります！アーメン！